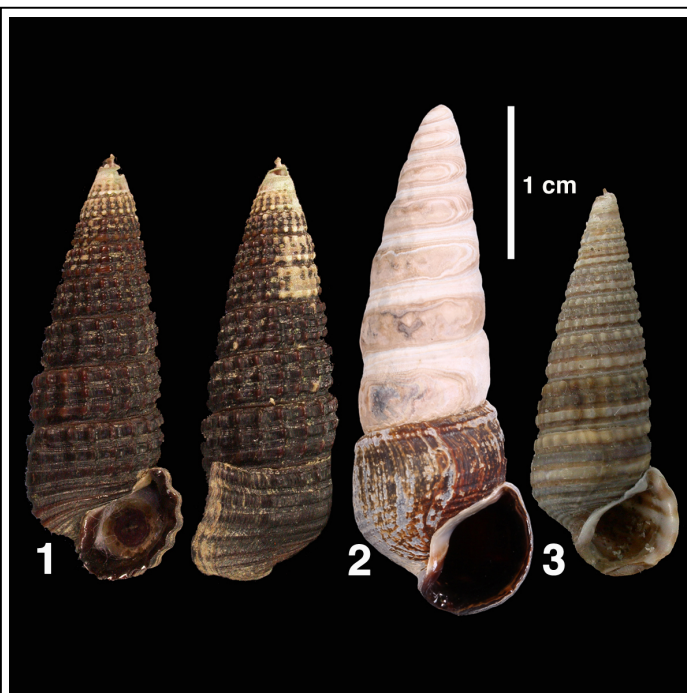


カワアイ *Pirenella pupiformis* Ozawa & Reid in Reid et Ozawa

【選定理由】

本種は、内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地周辺やそれより下部の泥干潟の表面に生息する。県内ではヨシ原湿地や泥干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村, 1999)。県内で最も干潟環境が保全されている汐川干潟では、県内では唯一最近まで生貝が確認されていた(図1)が、著しい個体数の減少が報告されている(藤岡・木村, 2000)。本種の生貝が汐川干潟で採集されたのは、2014年が最後で(西浩孝採集; 図2)、それ以降死殻(図3)が少数採集されるが、生貝が確認されていない。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



全て豊橋市汐川干潟産, 1: 2001年8月5日, 木村昭一採集,
2: 2014年5月27日, 西浩孝採集; 豊橋市自然史博物館所蔵
(TMNH-MO-28324), 3: 2017年4月12日, 木村昭一採集

【形態】

殻長約 30 mm の塔型で、十分に成長した個体の殻口は肥厚し、ヘナタリと近似しているが、外唇の下部は水管部へ延びることはない。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内の生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)では5カ所生息地が報告された。2000年からの調査では更に減少し、そのうちの1カ所では生息が確認されず、ウミナ類やヘナタリが群生する汐川干潟でも2001年8月の調査では3個体(図1)しか生息を確認できなかった。上述のように、現在県内で生貝を確認できない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、インド洋、太平洋、国内では東北地方から南西諸島まで分布する(木村・福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

県内では上述したようなヨシ原湿地周辺やそれより下部の泥干潟の表面に生息している。ヘナタリと同所的に分布しているが、本種は著しく個体数が減少している。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなヨシ原湿地や内湾奥の泥干潟が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。生息場所が新たに改変されていない場所でも近年個体数が著しく減少しているが、原因は不明。

【保全上の留意点】

上述したようなヨシ原湿地や泥干潟を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

葉山しおさい博物館(2001)では相模湾の個体群が消滅にランクされている。

【引用文献】

藤岡えり子・木村妙子, 2000. 三河湾奥部汐川干潟の1998年春期における底生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 10: 31-39.

葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.

木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌 54: 44-56.

木村昭一・福田 宏, 2012. カワアイ, p. 30.in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)